

ちかその ～ 親園編 ～



▲県道 48 号線(旧奥州道中)と旧八木沢宿

1, はじめに

(1)「^{ちかその}親園」とは？

親園という地名は、明治6(1873)年に^{なかい}中居村と^{やぎさわ}八木沢村が合併した際に誕生しました。「旧村が相親しくなるように」という意味が込められています。

その後、明治18(1885)年に親園村、^{うだがわ}宇田川村※1、^{おぎのめ}荻野目村、^{はなぞの}花園村(旧^{こたねしま}小種島村・旧^{みいろで}三色手村・旧^{ぬま}沼村)、^{たきおか}滝岡村(旧^{たきのさわ}滝野沢村・旧^{おかわく}岡和久村・旧^{あおき}青木村・旧^{わかめだ}若目田村)、^{みどり}実取村(旧^{さんどうち}三斗内村・旧^{たかのす}鷹ノ巣村・旧^{にしとのうち}西戸ノ内村)、^{ふくわら}福原村、^{おおがみ}大神村、^{かりきり}刈切村が合併し、親園村が誕生しました※2。昭和29(1954)年に大田原町、^{かねだ}金田村と合併し、大田原市になりました。大田原市は、令和6年12月1日に市政施行70年を迎えます。

※1 宇田川村は、現在大田原市の大字の一つです。宇田川の読み方は、「うだ^がわ」です。

しかし、地元では「うだ^かわ」と呼ばれています。ちなみに、小学校の名前は「宇田川小学校（うだ^かわしょうがっこう）」です。

※2 明治22(1889)年、福原村と大神村は佐久山町に、刈切村は大田原町に移管されました。

(2)今回歩く範囲

親園地区には現在、親園・宇田川・荻野目・花園・滝岡・滝沢・実取の7つの地区があります。今回は親園地区の内、旧八木沢村(八木沢宿)を歩きます。

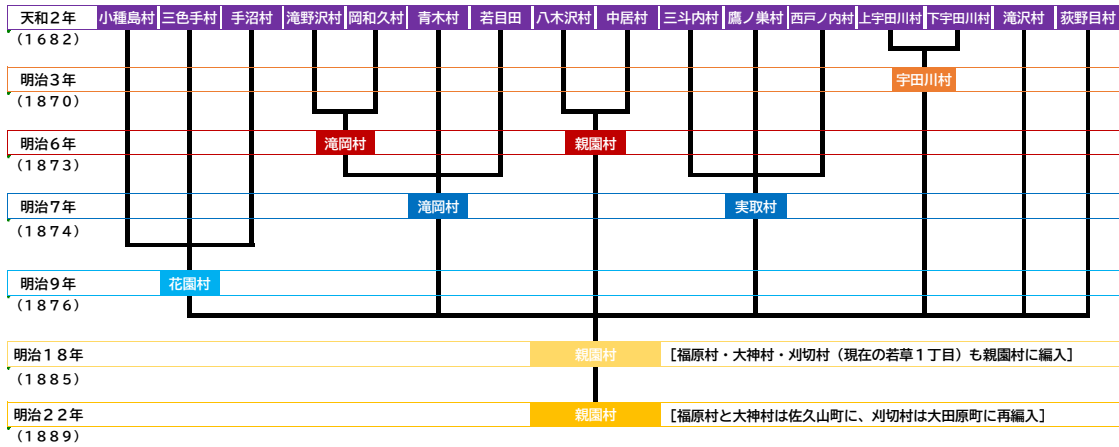
八木沢という地名は、沢地が多いことに由来する(=八十八沢)とも、森林が生い茂り、沢地が多いことに由来する(=弥^{いや}ぎさわ^いや)。「弥」とは数が多いことを意味する)ともいわれています。天正18(1590)年に豊臣秀吉が那須家に与えた領地の中に「^(八木沢)やき澤」とあることから、戦国時代末期には八木沢村がありました。天和元(1681)年に那須家領から幕府領となり、享和3(1803)には代官所が置かれました。江戸時代には奥州道中の中の宿としても整備され、主要街道の物流を支えました。

【参考①】江戸時代の八木沢宿(国立国会図書館所蔵「武奥増補行程記」より)

※国立国会図書館デジタルコレクションより転載



【参考②】親園地区の変遷(天和2年・1682～明治 22 年・1889)



2, 各史跡の紹介

(1)親園村役場跡

現在 JAなすの大田原南支店のある場所に、かつて親園村役場がありました。

この場所は、旧奥州街道(大田原方面／佐久山方面)や宇田川・黒羽方面への道、さらには滝岡・花園・片府田^{かたふた}方面へ続く道が集まる要衝でした。

村役場は、昭和 29(1954)年に大田原町と金田村に合併されるまで機能しました。合併後は大田原市役所親園支所として機能しましたが、昭和 36(1961)年4月1日に出張所となり、昭和 43(1968)年4月1日に廃止されました。

【参考③】明治時代の親園村役場周辺(「親園村全図」[親園小学校所蔵『郷土誌』第壹編所収])



(2)交通安全祈願のしめ縄

県道48号線(旧奥州道中)とライズラインが交差する親園交差点の隅に、しめ縄が張られています。これは、交通安全を祈願するしめ縄です。

この交差点では当初、交通事故が多発しました。その原因は基盤整備のために場所を動かされた墓石や石塔の祟りではないかとウワサされました。そこで、「奉修交通安全祈願祭ほうしゅうこうつうあんぜん きがんさいゆう」(交通安全を祈願する場所)と書いた立札の周りにしめ縄を張り、さらに毎年春と秋の交通安全週間初日に長泉寺(花園地区)のご住職きどうに祈禱を依頼したところ、交通事故も少なくなったといえます。



▲交通安全祈願のしめ縄(親園交差点)

立札「奉修交通安全祈願祭」▶



(3)石碑「明治天皇駐蹕之所」

明治9年(1876)、明治天皇は東北地方へ御巡幸されました。その道中、佐久山に宿泊し、親園・大田原を通過されました。この時明治天皇は、親園村の牛馬牧畜共同会社に立ち寄り、アラビア種の馬2頭をご覧になったといえます。このことは、

昭和6(1931)年に親園尋常高等小学校(現、親園小学校)が発行した『郷土読本』にも記されています。

下野国(栃木県)北部は、古来より名馬(那須駒)の産地として有名でした。江戸時代を通じて各藩で産馬が奨励されましたが、明治時代に入ると産馬事業は民間に引き継がれました。明治6(1873)年には、那須郡と塩谷郡の有志が産馬協同会社を設立しました。この産馬協同会社の事務所が、親園に置かれました。

このように、産馬事業に積極的であったこともあり、明治天皇も那須駒をご覧になったと考えられます。

現在、親園民具等展示室の裏に記念碑がひっそりと建っています。



▲「明治天皇駐蹕之所」

【参考④】「天皇御休所」(親園小学校所蔵「郷土読本」尋常五年用所収より)

第一 天皇御休所

明治天皇は早くから我が國の文化が世界の國々より、おくれてゐることに御心をそゝがせられ、おそれ多くも御身をもって國を盛んにすることに、御力を御つくし遊

ばされました。

ことに國を盛んにするには、産業を盛んにしなければならないとの御考へから明治九年六月四日東京を御出發遊ばされ、佐久山町、親園村、大田原町をへて、東北地方のやうすをごらんになられました。

そのころ本村には牛馬牧畜協同會社が矢吹眞一さんのうちにありましたので、天皇はしたしく御立より遊ばされ、アラビア種の馬二頭を御らんになられました。

今はその牛馬牧畜協同會社はなくなりましたが、御やすみ遊ばされた、たて物はそのまゝになってゐて、長くそのほまれをのこすために、庭に記念碑をたて「明治天皇御休所」ときざんであります。

(4) 薬王寺(瑠璃光山福藏院薬王寺)

真言宗智山派の寺院で、永享2(1430)年に宥長上人が花園(三色手)に開基し、元禄5(1692)年に現在地に移ったといわれています。寛延4(1751)年に描かれた『武奥増補行程記』*にも描かれています。

境内には、代官手代飯岡重武の妻の墓といわれる墓碑があると伝わりますが、現在は特定できなくなっています。



*『武奥増補行程記』は、南部藩士の清水秋全が南部藩主の命令で描いた絵図。

南部藩の上屋敷があった江戸桜田から盛岡城までを描いている。南部藩は参勤交代の際、基本的に奥州道中を通過していた。

◀国立国会図書館所蔵「武奥増補行程記」より

※国立国会図書館デジタルコレクションより転載

(5)湯殿神社

創建は不明。祭神は大山祇命。鳥居にある石の「湯殿神社」の扁額は、東久世通禧(文久3[1863]年の七卿落ちで長州に逃れた1人)によります。

拝殿前には、石燈籠「渡米記念碑」1対があります。この燈籠は、明治30年代後半から明治40年代前半、さらには大正時代中頃にアメリカに渡った親園地区の12名の子孫が、昭和12(1937)年に奉納しました。渡米した12名は、アメリカで農場や鉄道工夫などの労働に従事し、財を成しました。ちなみに、この頃の稼ぎは日当5円程度でした※。その後、帰国して田畑や蔵を購入する方もいれば、永住する方もいました。

※明治40(1907)年の米1俵の価格が4円72銭



▲拝殿前にある「渡米記念碑」



(6) ^{ほろのひ}蒲盧碑 [大田原市指定史跡]



▲蒲盧碑

蒲盧とは、^{しんきろう}蜃気楼のことです。文化9年(1812)、那須野ヶ原に一隊の兵士が行進する蜃気楼が現れました。これを目撃した高津義克という僧が、その光景を書き残しました。これが、^{ほろのひげんぶん}「蒲盧碑原文」です。その原文を石碑に刻んだものを「蒲盧碑」といいます。石碑の裏側には、代官手代の飯岡重武が詠んだ詩「はてしなく、浮世の人に、みするかな、那須の野面の、ほろのいしづみ」が刻まれています。

「蒲盧碑」は昭和 36(1961)年8月 22 日に、「蒲盧碑原文」は同年 12月8日に史跡に指定されました。

(7) ^{まちはじめひ}町初碑 [大田原市指定史跡]



町(八木沢村)が開かれたとされる寛永4(1627)年の年号を刻んだ石碑です。碑の高さは55cm、周囲は 93cm です。表面に「此町初 寛永四^(丙)ひのへ卯年」とあり、裏面に八木沢村名主の「^{くにいよざえもん}国井与左衛門」の名が刻まれています。

昭和 43(1968)年2月 15 日に史跡に指定されました。

◀町初碑

(8)八木沢陣屋跡

旧八木沢村にあった陣屋(代官館)の跡地といわれる場所です。吹上陣屋の出張陣屋で、建物は六角形造りで天地四方を型取っていたといわれています。代官の中でも^{やまぐちてつごろうたかしな}山口鉄五郎高品は、農業を^{しょうれい}奨励して荒地を開発し、風紀を正し、^{じんせい}仁政(とても良い政治)を行ったといえます。

現在建物や遺構はありませんが、「陣屋跡」と書かれた小さな碑があります。



▲陣屋跡

(9)ゴジャバシ(御陣屋橋)



陣屋跡の碑がある丁字路から小道を進むと、^{かもうち}加茂内川に架かる小さな橋があります。この橋は、陣屋にちなんで「ゴジャバシ」(^{ごじんやばし}御陣屋橋)と呼ばれているようです。

◀ゴジャバシ

3, おわりに

今回は親園地区の内、旧八木沢村(八木沢宿)を紹介しました。親園地区には、今回紹介できなかった史跡や名所がまだまだたくさんあります。

機会を見つけて、ぜひ訪れてみてください。

【主要参考文献】

- ・大田原市誌編集委員会編『大田原市史』前編(大田原市、1975年)
- ・親園尋常高等小学校編『郷土誌』(同校、1911年)
- ・親園尋常高等小学校編『郷土読本』尋常五年用(同校、1931年)

※『郷土誌』(親園村郷土誌)の翻刻文は、大田原市史編さん委員会編『大田原市史資料集 第一編 大田原市の郷土誌』(大田原市教育委員会、2021年)参照

【付録①】 武奥増補行程記

国立国会図書館所蔵「武奥増補行程記」は、国立国会図書館デジタルコレクションより閲覧できます。下記のURLか二次元バーコードから閲覧できます。

[URL]

<https://dl.ndl.go.jp/pid/2577827/1/22>

[二次元バーコード]



【付録②】 江戸時代の領主

江戸時代の親園地区には、様々な領主がいました。

天正18(1590)年、大田原家(大田原城主)は荻野目村を、福原家(佐久山城主)は滝沢村をそれぞれ豊臣秀吉から拝領しました。一方、小種島村・宇田川村・沼村・滝野沢村・八木沢村・若目田村・大木内(青木)村・三堂地村・鷹ノ巣村は那須家(福原城主／福原陣屋)が拝領しました。

大田原家や福原家が江戸時代を通じて転封(領地替え)や改易(領地没収)を経験しなかった一方で、那須家は延宝9(1681)年に那須藩から烏山藩へ転封となり、寛永19(1642)年と貞享4(1687)年には改易となりました(後に再興)。転封や改易のたびに那須家の領地が変わり、那須家が去った各村は幕府領(幕府直轄地)や旗本の領地となりました。

その結果、親園地区には様々な領主の領地が入り組むこととなりました。

以下、元禄11(1698)年時点の例をご紹介します。

(1)現在の親園地区

・幕府領……八木沢村、中居村

(2)現在の実取地区

・幕府領……………三堂地村、鷹ノ巣村
・大田原藩領……西戸野内村

(3)現在の滝沢地区

・旗本(佐久山の福原氏)領……滝沢村

(4)現在の滝岡地区

・旗本(久留島氏)領……滝野沢村
・旗本(倉橋氏、酒井氏、桑山氏)領…岡和久村
・旗本(久世氏)領……青木村、若目田村

(5)現在の花園地区

・旗本(久留島氏)……上沼村

- ・旗本(久世氏)……………三色手村
- ・旗本(加賀見氏、中根氏、浅井氏ほか)…小種島村

(6)現在の宇田川地区

- ・旗本(久世氏)……………上宇田川村
- ・旗本(松野氏)……………下宇田川村

(7)現在の荻野目地区

- ・大田原藩領……………荻野目村

【付録③】「親園」・「実取」・「滝岡」・「花園」地区の名前の由来

ちかその
【親園】

中居村と八木沢村の2つの村が合併する際、「相親しくなる」という意味を込めて「親園」と名付けられました。

また、親園・実取・滝沢・滝岡・荻野目・花園・宇田川の7か村が合併して親園村が誕生した際も、「旧村が相親しくなるように」という意味が込められました。

みどり
【実取】

三斗内村・鷹ノ巣村・西戸野内の3村が合併する際、3村を取り集めて1村とするということから「みど三取り」の意味に好字を取って、「三」を「実」とし「実取」と村名にしたといいます。また、ごこくほうじょう五穀豊穰を願って「実る」から「実」を取り「実取」と命名したともいわれています。

たきおか
【滝岡】

滝野沢と岡和久村の2つの村が合併した際、村の頭の文字である「滝」と「岡」をとって「滝岡」と名付けました。

はなぞの 【花園】

小種島村・三村手村・手沼村の3村が合併する際、「相親しい村(園)となる」という意味を込めました。さらに、「花」という美称の文字を頭につけて、「花園」になったといえます。

【付録④】 かつて親園村に存在した競馬場

那須地区では古来より産馬が盛んで、明治6(1873)年に設立された産馬協同会社は親園村に本社を設置しました。さらに明治16(1883)年には、那須疎水の事業でも有名な印南丈作いんなみじょうさくや矢板武やいたたけしをはじめとする地元の名士によって下野那須競馬会社が発足しました。

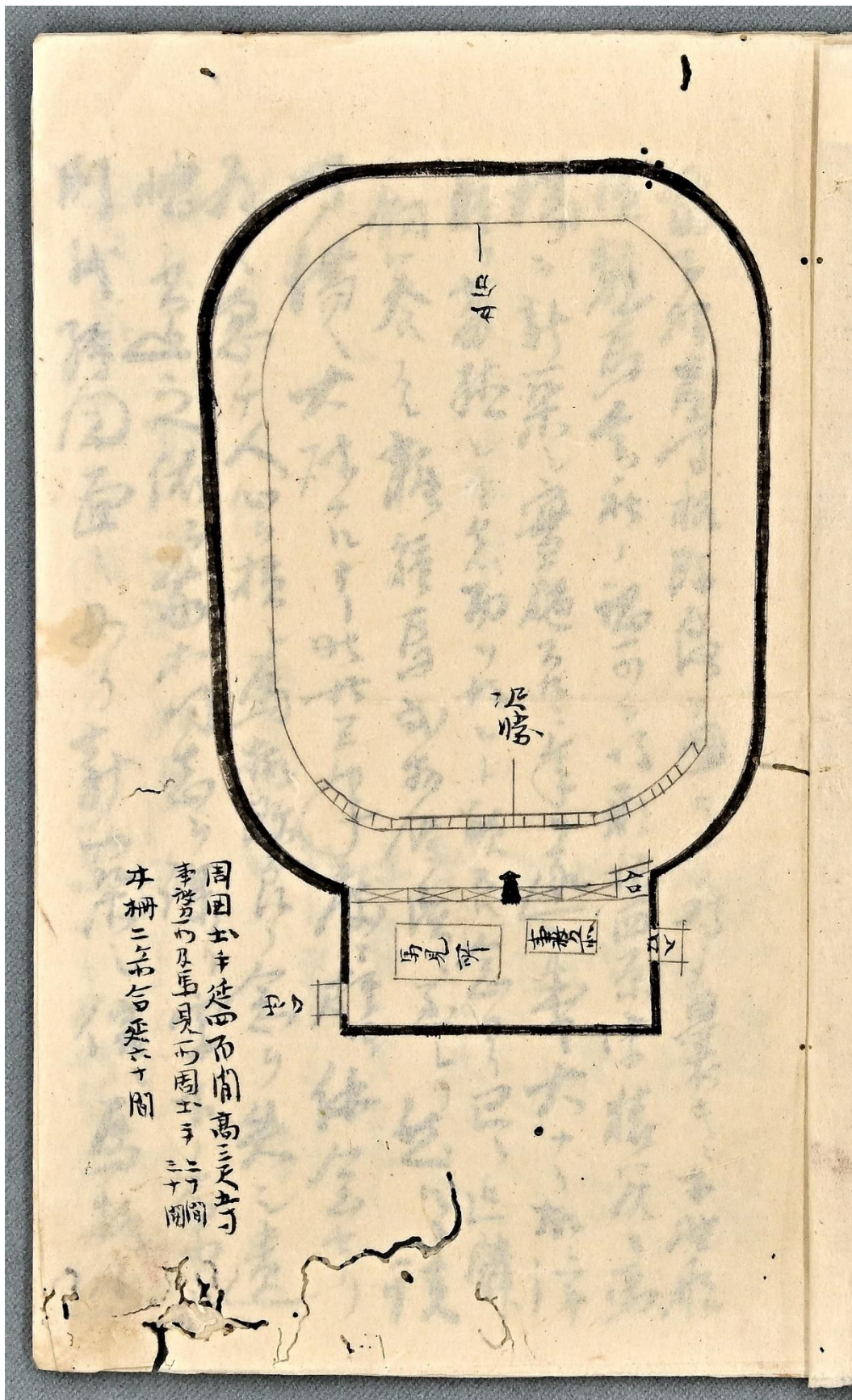
那須競馬会社は、明治16(1883)年に二つ室ふたつむろ(現在の那須塩原市)に競馬場を設置しました。しかし、この競馬場が「大破」したため、親園村に移転されました。この競馬場は、移転した地区の名前をとって「親園下ノ原競馬場ちかそのしたのほらけいばじょう」と名付けられました。

親園下ノ原競馬場は、明治 24(1891)年に完成しました。総延長 720mの土手が外周を囲み、馬見所や事務所も設置されました。

明治 24 年 10 月 10 日、親園下ノ原競馬場で初めて大会が開催されました。この時の観覧証や賞状用紙が那須与一伝承館に保管されています。ちなみにこの時の大会は会員制で、勝馬投票券かちうまどうひょうけん(馬券ばけん)はありませんでした。参加費は、一等会員は70銭(現在の約1,400円)、二等会員は50銭(現在の約1,000円)でした。

親園下ノ原競馬場では、明治 24 年から明治 27(1894)年にかけて計5回大会が開催されました。その後については不明ですが、昭和時代初期までに六本松(現、浅香4丁目付近)に移転されました。

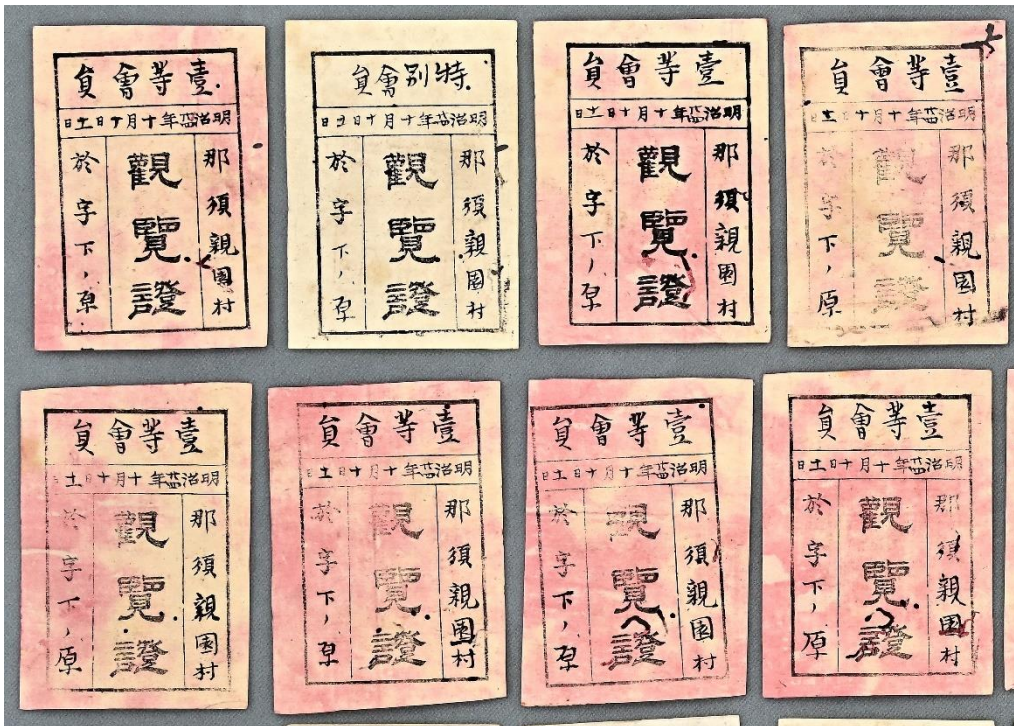
現在、競馬場の遺構はありませんが、親園中学校のある場所が、競馬場跡地だといわれています。



▲親園下ノ原競馬場の図(那須与一伝承館所蔵「競馬場新築寄附帳」高瀬藤原文書所収)



▲賞状用紙(那須与一伝承館所蔵高瀬藤原家文書所収)



▲觀覽証(那須与一伝承館所蔵高瀬藤原家文書所収)

【付録⑤】 親園地区のオススメスポット

(1)加茂神社と田谷川か も じん じゃ た や が わ [大田原市親園 2345]

加茂神社の主祭神は別雷之命わけいかづちのみこと。その由緒は、久寿2(1155)年に遡るといいます。この年の正月、三浦介みうらのすけ(三浦義澄みうらよしずみ)は勅命で九尾の狐を退治したといっています。その際、守護神として京の加茂神社を成神山(現、那須塩原市内)に奉祀したといっています。その後、慶安4(1651)年2月に現在地に遷徙したといっています。

また、加茂神社の境内の前を田谷川が流れています。この川は、栃木県指定文化財(記念物・天然記念物)にも指定されている糸魚(イトヨ)の生息地としても知られています。

そのほか、加茂神社の前に広がる田園風景は、「とちぎのふるさと田園風景百選」にも認定されています。



▲加茂神社



▲加茂神社の前の風景(撮影日:令和5年9月 29 日)

▲イトヨ

(2)親園地区の滝～不動滝と不動の滝～

[不動滝…大田原市宇田川 248(日本武神社)／不動の滝…大田原市滝沢 402(滝沢神社)]

親園地区には複数の滝があります。このうち、宇田川の^{やまとたけるじんじや}日本武神社境内にある滝は不動滝と呼ばれています。これは、日本武神社が宇田川八堂の「不動明王」と呼ばれていることに由来しています。ちなみに日本武神社は、天正9(1581)年に^{なす}那須^{すけはる}資晴が不動尊を再建し、寛文6(1666)年に^{なすすけみつ}那須資弥が神領を寄進したといえます。

また、不動の滝は滝沢神社境内にあります。かつて境内にあった神宮寺は、清流寺といいました(慶応4年に廃寺)。

滝沢神社はもともと^{やまとたける}倭武神社でしたが、大正2(1913)年に^{ひえ}日枝神社・^{みたま}三霊神社・倭武神社を合併して滝沢神社となりました。大田原市指定有形文化財でもある本殿は、元禄 12(1699)年に完成したといえます。領主の福原家の崇敬も厚く、屋根には福原家の家紋(一文字紋)も施されています。



▲不動滝



▲不動の滝

(3)南いわき幹線184号鉄塔

[大田原市滝岡(百村川と箒川の合流点付近)]

親園地区をはじめ、大田原市内には数多くの鉄塔があります。その中でも、特に滝岡地区にある南いわき幹線^{※1}の184号鉄塔は、東京電力管内^{※2}で最も背の高い鉄塔です。地上からの高さは、149mです。

付近には、百村川の左岸にある湧水スポットの「延命水」や、建久6(1195)年に那須与一が勧請したと伝わる滝岡の温泉神社(大田原市滝岡 210)があります。

※1 南いわき幹線は、福島県田村市の南いわき開閉所から大田原市・矢板市など
を
通
っ
て
群
馬
県
の
沼
田
氏
の
東
群
馬
変
電
所
を
結
ぶ
100万ボルトの送電線。

※2 東京電力管内とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・栃木県・群馬県・
茨城県・山梨県・静岡県(富士川以東)。



▲南いわき幹線 184 号鉄塔



▲滝岡の田園風景



令和5年度大田原市歴史と観光シンポジウム事業「史跡ウォーク」
(令和6年3月10日配布資料)親園編 ~終~